



## 優しさの中で育つ子どもたち

主幹教諭 中田 真理

柔らかな日差しが二小を包み、穏やかな初夏の風の香りが教室を満たしています。ご入学・ご進級から約1か月、保護者の皆様には新しい環境にわが子が馴染めるか、友達はできたか、先生はどのような人か、日々のご心配もあったかと思いますが、学校に送り出してくださり感謝申し上げます。

「何事にも最初はある」と申しますが、私もこの5月号が初めての巻頭言です。二小の保護者のみなさん、地域のみなさんに何をお伝えしようかと日々悩んでおりましたが、私が一番伝えたいことを見つめ続け、表題の通りになりました。生成 AI を使用すれば瞬時に文章を作ってくれる便利な社会だからこそ、私の心からの言葉・表現・内容に少しでもお付き合いいただければ嬉しいです。

ある朝のこと、6年生の児童が張りきって朝少し早く登校し、1年生のお世話をする姿がありました。授業中ではあまり見せない屈託のない笑顔、目線を合わせてランドセルを優しく入れてあげる動作、5年生の時より大きく成長した姿です。休み時間にも進んで一緒に遊び、役に立つ喜びを存分に味わっていました。1～5年の子どもたちも、もちろん大きく成長しています。授業中すべての教室を回っているのですが、そこで見かけたのは、グループ活動をしていた時に全員が参加できるように会話を回す姿、落ちていた消しゴムを拾ってあげて渡す時のさりげない声かけ、「一緒に遊ぼう」「いいよ」と昇降口での会話。枚挙にいとまがありません。

こうした日々の中で感じるのは、子どもたちは優しさの中で多くのことを学んでいるということです。優しさや思いやり、責任感や使命感といった大切な力は、つながりや優しさの中で少しずつ育まれていくのだと改めて感じています。私たち教師が教えること以上のことを、子ども同士の優しさの中に、学びがあるのかもしれない。

優しさは子ども同士だけではありません。放課後の職員室では、今日発見した児童の優しい言動を教職員が共有していることも多々あります。子どものことについて「あれも」「これも」とどんどん湧き出るように話があふれることもありますし、「そういえば、ほかにもこの子は…」と明るい表情で競うように話が盛り上がる先生方の姿からも『優しさ』を感じます。毎日通学路に立ってくださるボランティアの方からも、地域の方からも、給食を配膳してくださる方からも度々、他者を思いやる子どもたちの言動を教えてください。優しさは言動だけではなく。声や雰囲気からも察知して伝えてくださいます。

保護者の皆様も、ふとした会話の中や日常生活の中で、お子様の成長を感じることがあるのではないのでしょうか。何気ない一言や行動の中に確かな変化がみられることと思います。その一つ一つが子どもたちの歩みの大切な一歩です。



これからも、二小では子どもたち一人ひとりの良さや輝き・素晴らしさを見つけ引き出し褒めて育ててまいります。優しさの中で育つ子どもたちの姿を教員同士も、保護者の方・地域の方とも共有し、子どもたちを中心に、更に私たちが大きな愛で包んでいきましょう。子どもたちの優しさや努力や温かさが広がっていく、豊かな個性をもった子どもたちが居心地の良い学校であり続けられるように教職員一同努めてまいります。